

## おうちミュージアムの目的とその達成

北海道大学大学院 環境科学院

環境起学専攻 実践環境科学コース

渋谷 美月

おうちミュージアムは、新型コロナウイルスの拡大を機に、2020年から始まった、ミュージアムならではのゲームや工作、動画、レシピといったコンテンツをオンラインで発信する取り組みである。筆者は、北海道博物館の学芸員として、立ち上げ、全国に呼びかけて運営してきた。2023年1月現在、全国250以上のミュージアムが参加している。北海道博物館ウェブサイト内のおうちミュージアムのページには、参加するミュージアムの情報が集約されている。「博物館研究」に掲載されたおうちミュージアムに関する論文(渋谷 2020)は、日本博物館協会より令和2年度棚橋賞を受賞した。

本研究は、おうちミュージアムが、どのような意図で企画され、どのような経緯で現在のような全国的な取り組みになったのかを明らかにする。また、おうちミュージアムへの参加ミュージアムは、どのような意図で参加したのか、企画者の意図はどのように共有されたものであるのかを調査し、おうちミュージアムの目的がどの程度達成されたのかを明らかにする。

筆者が北海道博物館の学芸員として、おうちミュージアムに関して発表した文献等から、おうちミュージアムの経緯、目的とその変化をまとめた。また、各ミュージアムが実際にインターネット上で提供したコンテンツを調査し、典型的な事例を取り上げた。筆者が北海道博物館の学芸員として、参加ミュージアムに対しておこなったアンケート調査結果からは、参加ミュージアムの参加の理由や参加した感想などを確認した。

開始当初、おうちミュージアムの目的は、コロナ禍に自宅で過ごす子どもたちにミュージアムの学びを届けることであった。開始直後に届いた利用者からのメールにより、これまでミュージアムが置き去りにしてきた、来館が難しい人々の存在を意識するようになった。また、想定を上回る参加数及び多様性のあるミュージアムの参加により、連携によるさらなる展開も企画者として考えるようになった。アンケート調査では、臨時休館によりミュージアムがこれまでの活動ができなくなった状況で、おうちミュージアムのような前向きな活動が共感を呼び、口コミや SNS の力で、励まし合うように草の根的に参加が広まったことがわかった。共通のツール(ロゴなど)があったこと、多くのミュージアムが既に参加していたことは、取り組みの後押しとなった。また、他のミュージアムの活動が可視化され、情報共有や連携への期待が高まった。筆者が北海道博物館の学芸員として主催した交流会では各回25~50名が参加し、小規模の集まりやメーリングリストでの交流は現在も続いている。

おうちミュージアムで提供されたコンテンツは、調査研究、資料の収集と保存、展示やワークショップなどの教育普及といった、基本的な博物館活動を活用・反映して、用意された。また、来館を必要としないものの、ミュージアムならではのアプローチで、身近な生活や自然(実物)から学んだり考えたりできるようなコンテンツが数多く提供されている。

おうちミュージアムは、来館の代替ではなく、来館とは異なる方法でミュージアムの役割を果たすこと、多様なミュージアムが参加できる協働を生み出す役割ができる可能性がある。